

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(えぞりす)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	平成31年1月24日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700456-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

芽室駅より近く町の中心地に立地しています。
ホームでは創作活動に力を注いでいます、作品は町民文化展に出品し多くの人に見てもらえた事で満足感を味わって頂いています。
施設内研修、施設外研修に参加した後、報告書を提出してもらい、出席できなかった職員にも会議などで情報を共有し、統一されたチームケアが出来る様にしています。グループホーム交換研修では職員同士のコミュニケーションやそれぞれのホームの良い所を学び持ち帰り職員の資質向上や質の高いケアに繋げるように行っています。
統一されたチームケアに努め、入居者様1人1人が明るい笑顔で生活してもらえるように支えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成31年2月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

芽室町の駅に近く町の中心地に位置する「グループホームえぞりす・花しょうぶ」は1階が町の介護予防事業所で、2階3階が当事業所となっている。事業所を運営する法人本体は北海道内で福祉事業を数多く展開しており、芽室町では介護老人保健施設や当事業所を含めて4件(7ユニット)のグループホームとデイサービスを運営し、行事や災害避難訓練、訪問看護、職員研修等を芽室町での本部中心に合同で行っている。グループホームの運営は書類の様式等統一されているが、ユニット独自の運営もされている。両ユニットは互いに協力しながらそれぞれ利用者が毎日笑顔で過ごせる様に取り組んでいる。法人主催で、更に質の高いサービス提供を目指し、家族満足アンケートを実施して、利用者、家族から信頼して頂ける様に取り組んでおり、家族の訪問時には様子を伝え、毎月の事業所便りにも利用者担当者により日頃の状況をお知らせするコメントが添えられている。両ユニットとも創作活動に力を注ぎ、毎月取り組んだ作品は町民文化展に出品し利用者の活力ある暮らしの支援になっており、加えて外出支援、ランチバイキング、季節ごとの行事等単調になりがちな生活に多くの楽しみを提供している。窓が大きく明るいリビングでは温湿度に注意が払われ、鉢植え植物や季節の飾りつけがされて、家庭的で温かな雰囲気となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく生活出来る様に理念を作り、事務所に掲示し職員全員で実践につなげる様に会議で話し合い、常に取り組みんでいます。	法人理念に加えて開設時に独自の理念を作成し玄関、各ユニット事務室に掲示している他、パンフレットに掲載している。理念を記したカードを職員各自に配布して理解と浸透を図り、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町へ買い物に出掛けたり、町民文化展に出展し見学に出掛けたりしています。運営推進会議や避難訓練、家族会には町内会長さんに参加して頂いている。又、誰でも気軽に面会に来て頂けるような雰囲気作りに努めています。	町内会に加入し、地域に事業所行事のお誘いをしている。町内会長が近くに居住しており、災害時の協力を申し出てくれている。毎月取り組んでいる創作活動の作品を町民文化展に出品したり、町主催の介護予防事業所へ手品を見に行き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流に努めておりますが、まだまだ機会は少ない状態です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議は開催し、入居者状況や活動報告などを行い、出席して頂く役場の方や町内会長、家族などより質問や意見などを得て、フロア会議等で職員に報告しサービス向上に繋げるように努めています。又、会議録を全家族へ配布し情報共有に努めています。	利用者家族への案内は電話で行い、近隣の同法人事業所と合同で開催している。利用者代表、家族、町内会会長(民生委員兼務)が参加し報告や意見交換を行い、運営に反映する様取り組んでいる。議事録は家族に送付し情報の共有に努めている。	家族への開催案内は電話で行っていたが、夏の家族会以外は家族の参加が少ない状況となっており、文書での案内送付を検討している。家族へのアプローチを工夫し、家族の参加を得た運営推進会議の開催を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中々お会いする機会は少ないが、運営推進会議以外では電話やケアカフェで連絡を取り合い協力関係を築ける様に心掛けています。	運営推進会議に行政職員が参加している。行政職員、医療関係者、福祉関係者が参加するケアカフェが開催されており、情報交換や相談に取り組んでいる。法人では町から委託されたオレンジカフェを月一度開催し、認知症の方や家族と交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修などに参加して、資料は常に目を通せる所に掲示し、日々の業務や会議などでも話し合い、身体拘束ゼロのケアに取り組んでいます。	身体拘束のマニュアルを目に付きやすい所に置いて理解を促している。法人のグループホーム管理者を構成員として身体拘束廃止委員会を開催し、フロア一会議時に報告している。年2回職員各自の日頃の対応を振り返るチェック表を作成する予定となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は研修などに参加して常に入居者様の身体・精神的変化に気を配り、何か変化があった場合はホームの職員全員で話し合い、原因究明に努め虐待ゼロを目指しています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに出るだけ参加して知識を深め、必要な時にはいつでも活用できる様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書・重要事項説明書を十分に説明を行い理解・納得して頂き、一部ずつお渡ししています。又、退去時にも不安を取り除く様に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時に近況をお話したり、毎月発行の事業所便りで報告しています。又、ご家族満足アンケートを実施し要望や希望の把握に努め、サービス向上に反映するように努めています。	家族の訪問時には状況を説明すると共に、毎月各ユニット独自の事業所便りを作成し様子をお知らせしている。年2回の家族会には多くの家族が参加し利用者と焼き肉や餅つきを楽しんでいる。法人主催で年に一度家族満足度アンケートを実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議にて職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映出来る様に努めています。又、普段より意見交換のしやすい環境作りを心掛けています。年度初めには職員の意見を取り入れた目標管理シートを作成し、統一されたチームケアに取り組んでいます。	管理者は日常業務時や月に一度のフロア会議時を職員の意見や提案を聞く機会としている。職員は年に一度自己評価を行いそれを纏めて年度初めに目標管理シートを作成し、方向性を同じくした介護提供に努めている。法人として職員待遇改善に取り組み就業環境整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力・実績などを把握する様に心掛け、負担がかからないような勤務体制作りを工夫し常に向上を持って働けるような環境・条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の調整を行い、グループホーム勉強会、施設内研修、施設外研修に積極的に参加できるように努めています。参加後は報告書を提出し、フロア会議で意見交換を行い情報共有に努め、職員の知識・意識の向上につなげる様に心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内グループホーム交換研修を実施したり、グループホーム勉強会でのグループワーク、各委員会などでグループホーム内交流を行っています。又、めむろケアカフェに参加し町内の他事業所との交流も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の生活の場でアセスメントするように努めています。ご本人からの訴えを見過ごすことなく、お話を聴き不安・要望をしっかり受け止め安心して生活して頂ける様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時面接や契約時にご家族の不安や要望をお聞きし支援を行う様に努めています。又、入居後も面会時や電話などで情報交換をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人やご家族と積極的に対話するように努め、他サービス利用の必要がある場合は関係機関より情報を収集し、速やかに対応出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその人に出来る作業やお手伝いを一緒にする事でコミュニケーションを図り、より綿密な関係を築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りに心掛け、面会時には積極的に会話しています。その中でご家族の思いを把握し共に入居者様を支える事が出来る関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の知人の訪問や、友人が訪問しやすい環境作りに心掛けています。職員と町内の商店へお菓子やソフトクリームを買いに出掛ける様に努めています。	友人や知人の訪問や階下の介護予防教室の利用者と交流している。編み物が趣味の利用者で編み物クラブと称して編み物を楽しみ、作品は町文化展に出品しており、利用者のこれまでの関わりや習慣、趣味等を大切にされた支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は居間へ集まる事が多く、楽しくお話ししたりレクリエーションなどで交流を図っています。不都合が生じた場合は職員が間に入り支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先、新施設などへ訪問する様に心掛け、出来る限り相談や支援をさせて頂く様に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情、発語などから希望や意向を把握するように努めています。私の暮らし方シートを用いて生活歴や趣味を追記出来る様に努めています。	職員は努めて利用者とは会話する時間を持つ様に取り組んでおり、利用者との会話や様子から思いや希望の把握に努め、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話を伺い、必要時には関係機関から情報提供して頂き、支援に活かせる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて、自身で出来る事は積極的に行って頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートにて職員全員に周知把握できる様に務めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や要望の把握に努め、毎月のカンファレンスを参考に担当者がモニタリングも行き、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者、家族の意向を基にフロアー会議でのカンファレンス、利用者担当によるモニタリング等を参考に状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っている。ケアプランの変更になった部分は色を変えて記入され職員に周知しやすい様に工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の現況を記録紙、職員間は連絡ノートを用いて常に新しい情報を共有できる様に努め、統一されたチームケアの実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じてご本人、ご家族のニーズに対応できるように、必要時には本体老健の関係者へ相談を行い意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、入居者が安全で安心して豊かな生活を楽しめる様に支援させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホーム主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の際には主治医より書面を頂き家族に受診して頂いています。受診時は受診経過表に往診時は生活記録に個別で記録しています。	利用者のほとんどが協力医の往診を受けているが、専門医受診の時は家族にお願いしている。その際には書面で状況を説明している。週に一度法人の訪問看護師が訪問して健康管理を行い、適切な医療が受けられる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気になる点、変化があった場合にはすぐに相談して入居者様の健康管理に適切な対応が出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはその方の日常生活、注意点などを書面にて資料としてお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者との連絡を密に取り退院後も安心した生活が出来る様に支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望を確認しています。必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをして方向性を共有するように努めています。	重要事項説明書の中に「重度化した場合における(看取り)指針」が添付してあり、入居契約時に説明し、同意を得ている。必要時には再度医師を交えた話し合いを行い、「看取り共同計画書」を作成して意向を確認し医師、本人(家族)、事業所職員で署名し、意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会などに積極的に参加をする様に心掛け又、日々の自己学習にて実践力を身に付け急変時や事故時に早急に対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回は実施し一度は夜間想定で行われています。消防、町内会長にも参加して頂き協力体制を築くように努めています。地震想定にてホーム内の危険箇所を確認しケア別対応も出来るようにフロア会議にて話し合っています。	年2回の避難訓練を実施し、内1回は消防の協力を得て夜間想定で実施している。今年度は職員の通報連絡網整備を行っている。北海道ブラックアウトを経験し、対応の検討を法人本部や職員と話し合っている。	火災避難訓練に地域住民の参加が得られていない状況となっている。火災時の避難協力を依頼し、具体的な役割を伝え、いざという時に備える事を期待したい。更にライフライン断絶時の寒さ対策を早急に行う事を期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様1人ひとりの人格を尊重し思いやりのある対応を心掛けています。記録は鍵のかかるロッカーで保管を行っています。	管理者、職員は利用者の尊厳を尊重し、言葉かけや対応に注意を払っている。介護記録の保管は鍵のかかるロッカーに保管し、衛生用品の保管も適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現をされない方もいらっしゃいますが、ご本人の思いをくみ取る努力を行い、出来る限り自己決定をして頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先させる事なく、1人1人の表情を観察しながらその方のペースを大切に希望に添った支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、その方の希望されたみだしなみが出来るように支援しています。毎日着る服と一緒に選んだりもしています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせた食事の準備、片付けなどを一緒に行っています。特別メニューの献立は入居者様の希望を伺い作成するように心掛けています。	利用者の好みや希望を取り入れバランスに配慮した献立を職員が作成している。年に4回セレクトランチを実施し、季節感のある食事を提供している。時にはパン屋のパンを買ってくる等、変化をつけて楽しい食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養のバランスが確保出来るよう支援しています。時折、本体老健の栄養士にメニューを見て頂いています。水分摂取は表に記入して目標数量も設定し職員全員が把握出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援しており、その方の力に応じ職員が支援を行っています。又、必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄を一覧表に記入しパターンを把握出来るようにして、間隔や本人の状態、意思表示により声掛け誘導を行い、自立した排泄が出来るように支援しています。可能な限り布パンツにパットで対応しています。	水分チェック、排泄チェック記録は全員行い、タイミングを把握してさり気なく誘導し、トイレでの排泄を支援している。カンファレンスでパッド等を検討し、職員間で共有して、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便チェックを行い、水分量にも気を配り、乳製品を出来る限り取って頂き、ラジオ体操、フロア内の歩行運動や立位運動などの適度な運動もして頂くように支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回、ご本人の意向、体調、希望などを考慮し気持ち良く入浴をして頂けるよう支援しています。	週に2回は入浴出来る様に支援している。入浴剤を複数用意し希望の香りを選んでもらったり、お湯につかりながら職員と話をする等、ゆっくり入浴を楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣に合わせて休息を取って頂いていますが、出来る限り日中は適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き、夜間は良眠出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬について理解、把握をする様に努めています。変化があった場合はすぐに連絡ノートにて周知し、症状の変化については常に確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、天気が良ければ散歩や行事を企画し外出して頂いています。又、日々その方の好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送って頂けるように努めています。		

グループホーム えぞりす・花しようぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によりますが散歩をしたり、花見や紅葉狩り、地域のイベント、外食へも出掛けています。ご本人の希望にて担当職員と町内での個別外出を行っています。ご家族とも気軽に外出して頂いています。	日常的に散歩や商店街に買い物に出かけている。気候のよい時期には月に一度は皆でドライブを楽しみ、花見や紅葉狩り、外食等を楽しんでいる。今年度から外食時の職員の食事代が支給されるようになっていく。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。購入したいものがある場合は職員が代行したり、一緒に買い物へ出掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会は中々ありませんが、ご本人の希望にてキーパーソン様へ電話を掛けたり、ご家族や知人の方から電話が掛かってきてお話をしたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光の調整をしたり、温湿度計を設置し快適に過ごせるよう管理し、家庭的で落ち着いた空間作りを努めています。又、入居者様と一緒に作成した創作物を展示したり、廊下には外出、行事ごとの写真を掲示し入居者様やご家族様に楽しんで頂いています。	暖房設備は電気蓄熱パネルが天井にはめ込まれており、やけど等の危険のないように設置されている。リビングや共用部分の湿度は50%が確保されており冬期間の風邪、インフルエンザ予防になっている。文化祭に出品された作品が飾られており、行事の写真が貼られて楽しく居心地よく過ごせる様に工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様、居間や食堂にて過ごされる事が多く、自然と居場所も決まっている様子。皆様でお話をしたり歌を歌ったりして過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をお持ち頂くようお話しています。入居者1人ひとりが使用しやすい様、それぞれの物の配置も違いご本人、ご家族と相談しながら居心地良く過ごせる様に工夫をしています。	居室天井に暖房電気パネルが埋め込まれており、クローゼットと洗面台、ベッドが用意されている。利用者は筆筒等の家具やテレビを配置し、家族の写真や絵が貼られ、人形や好みの物を飾り、自宅同様に生活できる様配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所がわかりやすい様に札を付け目に付きやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方にも手すりを活用し自立支援を行っています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(花しょうぶ)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花しょうぶは、芽室町の中心街にあり公共施設や病院と近く、地域のコミバスのバス停もあり便利な所です。職員は、毎日の生活の中で出来る事出来ない事を見極め、楽しみの持てる生活を支援出来るように努めています。創作活動には特に力を入れていて、皆さんで作った作品を秋の町民文化展に出展し、町民のみなさんにみて頂く事で大変励みになっています。また、季節ごとに年4回開くランチバイキングは、入居者様はもちろん、職員も楽しめる行事になっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700456-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所や玄関に掲示し、いつも目に触れるようにしています。職員は皆、理念を共有できるように努力しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。近所に買い物に出掛けたり、町民文化展に作品を出したりして地域との交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流は少ないですが、散歩などで会った時には、元気に挨拶をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度定期的開催し芽室町・ご家族・町内会長さんに参加して頂き、皆さんの意見を取り入れるようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中々、連絡を密に取る事は難しいですがケアカフェ等に参加して情報を共有する様に心掛けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会や研修に出来るだけ参加し具体的な行為を理解して身体拘束しないケアに取り組んでいます。また身体拘束マニュアルは目がすぐに通せる所に置いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体的・精神的変化を見逃さない様にし、何かあった時は職員全員で話し合い、虐待防止に努めています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を必要としている方はいませんが、いつでも活用できるように心がけています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際に利用契約書や重要事項説明書をお渡しし納得がいくまで説明を丁寧に行なっています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、ご家族様に満足度アンケート調査や意見箱を設置し意見を反映出来るようにしています。また、入居者様には、日々の生活の中でお話を傾聴する様に心掛けています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議で意見や提案を聞き働きやすい職場作りを心掛けています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の負担にならない様な勤務状況に心掛け、楽しくやりがいを持って長く働ける様に環境整備等に努めていますが職員の不足はなかなか埋まらないのが現状です。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会には出来るだけ参加し、参加者は報告書などを通じて不参加の職員にも内容を伝えて知識の向上につなげています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修を実施したりして他のホームとの交流を行なっています。また、芽室ケアカフェに参加し他事業所との交流も時々行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人様の生活の場でアセスメントする様に心掛けています。不安な事や要望を受け止め支援するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	りらく相談課と連携しお話を伺ってより良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握するため積極的にお話を伺っています。他のサービスが必要になった時には関係機関に相談し速やかに対処します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でその方の出来る事をお手伝い頂きよりよい関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも面会しやすい環境作りを心掛けています。面会時には職員も時間が許す限り御家族様とお話して、ご家族の思いを把握し、ともに入居者様を支えられる関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも訪問しやすい環境作りに心掛け、外出や外泊が出来る機会を作る配慮をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様、居間で過ごされる時間が長くお話しされたりと交流されています。何か不都合があったときは職員が間に入って支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院先などを訪問し、必要であれば出来る限りの支援を行ないます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人様やご家族の希望や意向に沿った支援が出来るように暮らし方シート等を使用して支援が出来るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネからできるだけ今迄の生活の様子を伺い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて生活のペースを観察し、何か変化があれば生活記録や連絡ノートを使って全職員に周知しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望を元にしてフロア会議やカンファレンス会議の中でケアプランのモニタリングを行ない、現状に即した介護計画作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌や生活記録に毎日の様子を記録し常に新しい情報を共有しながらケアの方法を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて対応出来るように努力しています。必要な場合は本体の老健施設と相談を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め皆様が安心して暮らせるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホームの主治医に往診に来て頂き継続医療を提供しています。専門医受診の場合は主治医に紹介状を書いて頂き対応しています。また、毎週、訪問看護師が来て入居者様の健康管理や相談を行なっています。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事があった場合は、週に一度の訪問日以外でも24時間体制で相談することが出来るので適切な対応が出来ます。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は日常の様子や注意点をまとめた資料を担当者に手渡しています。入院中も連絡を密にして病院関係者との情報交換に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望を早いうちから話しあって支援します。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会には出来るだけ参加し緊急時の対応が出来るように努力しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様参加の避難訓練は年2回は実施し、夜間を想定した避難訓練も実施しています。訓練には町内の方も参加して下さっています。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	皆さん一人一人の人格を尊重し思いやりのある対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現出来ない方もいらっしゃいますが出来るだけ気持ちを汲み取るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先する事無く皆さんの生活ペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容を活用し好みに合った身だしなみが出来るように支援しています。希望があれば、一緒に買い物に出掛け衣類を購入する事もあります。		

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感を大切にし一週間ごとに職員が考えています。調理も準備から片づけまで皆さんに手伝って頂いています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事の量を適切に把握し、水分量も飲水表を記録して脱水にならない様に心掛けています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。月に一度、歯科医の往診もあり、必要な処置や助言を頂いています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録を付けて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を付け排便チェックを行っています。出来るだけ野菜中心の献立を考え、ラジオ体操や散歩など運動も毎日行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週二回の入浴が出来るようにしています。状況によって午前中の中の入浴の方もいますが体調などを考慮してのんびりと湯船につかって頂いています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さんの体調や生活習慣に合わせて休息して頂いています。夜間良眠出来るように身体を動かすなどの支援をしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋はその都度確認しています。症状の変化も常に確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節や天気良ければ散歩や外出に出掛けています。冬期間は室内レクを行ない楽しみのある生活を送って頂ける様に支援しています。			

グループホーム えぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は難しいですが気候の良い季節にはドライブや外出に出掛けています。ご本人の希望を伺って担当者と外出をする事もあります。ご家族との外出も気軽にさせて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かって必要な物を職員が購入したり、時にはご本人と一緒に買い物に出掛けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く事はほとんどありませんが、希望があれば何時でも気兼ねなく電話をかけて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごして頂ける様に室温や湿度の調整に気を付けています。特に冬期間は乾燥に注意しています。また廊下には、外出の時の写真や季節の創作物を展示し楽しんで頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様、居間で過ごされる時間が長く、自然と座る所も決まっていますが、気の合った仲間でお話されています。時には他者の居室を訪問されるなど交流されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具を持参して頂き、ご家族とも相談しながら居心地良く過ごして頂ける様に配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室はわかり易いように工夫し、札を掛ける等しています。車椅子の方にも手すりを使い安全に過ごせるように支援しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームえぞりす・花しょうぶ

作成日：平成 31年 2月 28日

市町村受理日：平成 31年 2月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への家族の出席率が低いため、出席率を上げるにはどうしたら良いか。	家族の出席率が低いので、案内を出し出席又は意見でも参加出来る様に努める。	次年度より、毎回案内を送付する事に決め、参加を促す様に努めて行きます。	1年間
2	35	避難訓練は年2回行っていますが、地域住民の参加が得られていない。	地域住民の方々に避難訓練に参加してもらい、火災時における避難協力の依頼を行っていく。	推進会議などで、火災時における避難協力を依頼し役割を確立して行きます。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。